

南幌町の稲わらペレットの取り組みについて

再生可能エネルギーとは？

■再生可能エネルギー

法律で「エネルギー源として永続的に利用することができると認められるものとして、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱、その他の自然界に存する熱、バイオマス」と規定されています。つまり、石油などの有限なものとは違い、資源の枯渇などのおそれが少ないエネルギーです。

また、再生可能エネルギーは、発電や熱利用するときにも、地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど出さないことから地球環境にやさしいエネルギーです。

私たちの暮らしは、石油や天然ガスなどの化石燃料にその多くを頼っています。この化石燃料のほとんどは、海外からの輸入に依存しており、世界的なエネルギー需要が急激に増えていることから、これからのエネルギーを取り巻く状況は厳しくなっています。このような状況の中、エネル



より放出される二酸化炭素は、生物が生長する過程で大気中から吸収したもので、地球温暖化を引き起こす二酸化炭素を増加させることはありません。

■ペレット

ペレットとは樹木などの原料を細かく砕き、圧縮して棒状に固めて成形したもので、長さが1〜2センチ、直径が6〜12ミリが主流です。ペレットを燃料とするペレットストーブ

は、燃料を自動的に燃焼させることができると、操作性に優れています。



南幌町の取り組み

■稲わらペレットの取り組み

南幌町では、平成19年2月に「南幌町地域新エネルギービジョン」を策定し、町内のバイオマスなどのエネルギーの量や利用の可能性について検討しました。その結果、稲わらなどの農業系バイオマスが利用できるエネルギーとして一番多いことが分かりました。

また、平成21年に農業系バイオマスの利用について詳細な検討を行い、稲わらをペレットとして利用することとしました。

■南幌温泉へのボイラーの導入

平成23年3月になんぼろ温泉ハート&ハートに、稲わらペレットを燃料とするペレットボイラーを導入し、本館の給湯（シャワー、カランなど）のお湯を作っています。稲わらはケイ素が多いことから焼却灰が固まる性質があります。そのため、現在は木質ペレットと稲わらペレットを1対1の割合で混合して使用しています。

■その他の再生可能エネルギー

保健福祉総合センターあいぐるに太陽光発電システムを導入し、発電した電気はあいぐるで使用しています。

また、学童保育室や公民館、ふるさと物産館ビュローにペレットストーブを設置しています。

また平成25年度より、再生可能エネルギーの導入を促進するため、太陽光発電システム設置費用やペレットストーブ購入費用に対して補助をしています。

役場庁舎に稲わらペレットを利用したストーブを設置しました！



現在、稲わらペレットを燃料とする住宅用のペレットストーブは販売されていません。しかし、町では稲わらペレットを利用しているところを皆さんに見てもらい、稲わらが身近な燃料であることを知ってもらえるように、ペレットストーブを、稲わらペレットも利用できるように改良し、役場のロビーに設置しました。現在は、木質ペレットに稲わらペレ

ットを10%混合して燃やしています。また、稲わらペレットを燃料とするペレットストーブは、日本で初めて導入したこともあり、利用しながら最適な燃料の混合率や燃焼方法などを確認していきます。今後は、ペレットストーブの周りに、パネルやペレットのサンプルなどを置いて、町民の皆さんにこの取り組みについて広くアピールしていきたいと考えています。